

# 令和6年度 金沢錦丘中学校 学校評価最終報告

NO. 1

## 【重点目標1】 中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばすための工夫・改善を図る。

具体的な取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
1-1 中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りを持ち、気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にすることともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができる。肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑯ 肯定的評価79% 【判定:C】 (前期:B -1%)	・前期と比べて変化はなかった。3年生においては、よくあてはまると回答した生徒が5%増加した。教師による挨拶などの人間力が身についているかの項目でも同様に評価は高く、引き続き声かけもそうだが、生徒自身が習慣となっていくよう指導を続けたい。
	提出物や課題は、期限を守って提出している。肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑦ 肯定的評価83% 【判定:B】 (前期:B -5%)	・前期と比べ肯定的評価が-5%、よくあてはまると回答した生徒が-6%減少した。1年生と3年生についても、よくあてはまると回答した生徒がそれぞれ-6%、-12%と減少している。提出物や課題の提出に見通しを持たせるなど、事前の工夫を心がけたい。
1-2 健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	規則正しい生活をするとともに部活動を通して心身ともに逞しくなっている。肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑧ 肯定的評価90% 【判定:A】 (前年度:A -1%)	・前期と比べて変化はなく多くの生徒は肯定的に評価している。しかし、よくあてはまると回答した生徒が2年生と3年生で-6%程度減少した。来年度から参加の仕方や28年度からは活動の仕方も変更になるため、部活動の在り方に対して慎重に協議していく必要がある。
1-3 中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 4級50%以上 3級55%以上 準2級40%以上 2年 4級45%以上 3級45%以上 準2級30%以上 3年 4級40%以上 3級35%以上 準2級20%以上 C 4級40%以上 3級35%未満 準2級20%未満 D 4級40%未満 3級35%未満 準2級20%未満	1年 4級54% 判定:A 2年 3級51% 判定:B 3年 準2級62% 判定:A 【判定:A】	・どの学年においても高い判定である。英語は、本校の特色のひとつでもある。引き続き、生徒への働きかけを行いながら、自主性と創造性の育成に努めたい。
1-4 朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書が好きである。肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑨ 肯定的評価76% 【判定:C】 (前期:C -1%)	・前期に引き続き肯定的評価は、全体だけでなく各学年においても70%を越えている。委員会の活動や国語科を中心とした各教科においても読書の楽しさや大切を生徒に伝える努力を続けていきたい。
	朝読書に、集中して取り組んでいる。肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑩ 肯定的評価89% 【判定:B】 (前期と同じ)	・前期と変わらず高い評価である。生徒の中での、朝読書の必要性が浸透している結果であると言える。指導を継続させていきたい。
1-5 望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない、学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等をとおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	教職員アンケート 教育活動⑪ 肯定的評価100% 【判定:A】 (前期と同じ)	・前期に引き続き肯定的評価は100%であった。実際の様子でも、実態把握からの対応も迅速に丁寧に行っている。これからも生徒・保護者が安心して過ごせる学校づくりを行っていきたい。
1-6 生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす。教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	「自分には良いところがある。」と感じている。肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑫ 肯定的評価81% 【判定:B】 (前期と同じ)	・前期と同じく、80%を越える生徒が肯定的に評価している。しかし、約20%の生徒が否定的な思いを抱えている現状がある。その数値が減っていくよう学校全体で、または、学年・学級、各教科で自己肯定感が上がっていくよう、様々な角度からの取り組みを行っていくことが大切である。

## 【重点目標2】学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさと粘り強さを伴った確かな学力を育成する。

2-1	生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	教材研究に取り組み、「授業が良くわかる」と回答する生徒を増やせている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート 【教師:教材研究】 肯定的評価95% 【判定:A】 (前期:A -5%)	・前期と比べ肯定的評価は-5%となったが、判定としてはA評価と変わっていない。研究からの共通実践の取り組みに関するアンケートでも良好な結果であったため、教員全体で意識を持ち取り組んでいると言える。
2-2	付けたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート (教師) 肯定的評価89% (生徒) 肯定的評価92% 【判定:A】 教師:-5%、生徒:前期と同じ	・前期に引き続き高い数値となっている。ほとんどの授業で、話し合い活動が行われ、生徒にとっても活動を通して次につながる内容になっており、教員の手立ても効果的に行われているとも言える。
2-3	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、教えきる、学びきる指導を行う。	個に応じた指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やすことができる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート 教育活動⑨ 肯定的評価83% 【判定:B】 (前期:B +1%)	・前期と比べて変化はなく肯定的評価は83%であつた。下位層への手立ても夏休み以降十分行えておらず、担当者まかせになっている。学年ごとでもよいので、計画的に進め必要がある。
2-4	論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート 教育活動⑥ 肯定的評価100% 【判定:A】 (前年度:A +6%)	・前期から6%増加し、肯定的評価は100%となった。考え方、表現することは本校生徒の特徴のひとつでもある。引き続き指導を続けていきたい。
2-5	批判的思考力を育成するため、課題設定、発問、学習形態等を工夫する。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート 教育活動⑧ 肯定的評価100% 【判定:A】 (前期:B +12%)	・前期と比べ、肯定的評価が12%増加し、100%となった。上記の表現する力同様に、様々な視点からの思考とともに、多様な意見のもと授業が展開されていくよう、教師の工夫を続けていきたい。
2-6	高校の学習内容を視野に入れてた発展的課題に取り組むことで、目的意識や向上心を高める。	6年間の系統性を踏まえ、それぞれの教科の指導を行っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート 教育活動⑫ 肯定的評価94% 【判定:A】 (前期:B +6%)	・前期と比べ、肯定的評価が6%増加し、A判定となった。教員だけでなく、生徒も6年間での学びを意識しながら、様々な活動に取り組んでいけるよう今後も指導していきたい。
2-7	自律的な学習習慣が身に付くよう指導・評価計画とテスト作成を工夫する。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	生徒アンケート⑥肯定的評価44% 保護者アンケート③肯定的評価58% 教職員アンケート肯定的評価61% (その他⑥) 【判定:D】前年度:C 生徒:-6%、保護者:-6%、 教職員:-21%	・今年度の重点課題と言ってもよい。目標が達成できていないだけなのか、そもそも家庭学習が習慣化されていないのか、現状把握をしっかりとを行い、フォーサイトの活用などとも合わせて来年度に向け、教員全体で協議していく必要がある。

【重点目標3】道徳教育やキャリア教育の充実及び積極的な生徒指導の推進を通して、高い志と人を大切にする豊かな人間性、主体的に行動できる強い心を持った生徒を育成する。			
3-1 道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や人を大切にする心、より良い社会の実現を目指すなどの道徳性を育む。	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自己の成長や人を大切にする心が深まつたことを感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑯ 肯定的評価94% 【判定:A】 (前期:A + 2%)	・前期に引き続き、高い数値となった。今後も道徳推進教師を中心に計画的に道徳教育を推進していきたい。
3-2 総合的な学習の時間や特活の時間を中心に6年間を見通したキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。	将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑰ 肯定的評価76% 【判定:C】 (前期:C - 1%)	・前期と比べ大きな変化はなく、肯定的評価が70%を越える結果となった。必ず夢や目標を持たなくとも良いが、残りの20%程度の生徒が、6年間の学びのなかで見つけ出さんだという考えのもとで様々な教育活動に取り組むよう指導していきたい。
	キャリア的行事は、自分の将来を考える機会となっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑯ 肯定的評価90% 【判定:A】(前期:B + 4%)	・肯定的評価が前期から4%増加し、A判定となった。今後もキャリア行事を通して、自分と見つめあったり、将来について考えるきっかけにするなど、よりよい機会となるよう工夫を重ねていきたい。
	将来の夢や目標に向かって努力している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑯ 肯定的評価75% 【判定:C】 (前期と同じ)	・前期同様、C判定であった。残りの20%は、前項の将来の夢や目標を持てていない回答した生徒と同数である。持っていないでも夢や目標を見つけるための努力も変わりは無いことを様々な場面で伝えていく必要がある。
3-3 学級会活動や生徒会活動において、1年生から段階的に話し合い活動や自治的な活動に取り組ませ、自主的・実践的な態度を育てる。	色々な活動や取組に対して、自分で考えて自主的に最後まで粘り強く取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート㉑ 肯定的評価89% 【判定:B】 (前期:A - 2%)	・前期から2%減少し、B判定となったが、多くの生徒は粘り強く取り組めていると感じている。引き続き生徒の自主性を引き出すような教師の手立てや工夫を行っていきたい。
【重点目標4】教職員の働き方や業務改善に関する意識改革を図るとともに、学校経営について積極的に情報を公開し、安心して学べ、信頼され、県民からより選ばれる学校づくりを行う。			
4-1 長時間勤務をやむなしとするこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で教職員の専門性を生かしつつ、教材研究・授業準備や子供たちと向き合う時間を確保する。	時間外勤務時間月80時間超える教職員の数(月平均) A 0人 B 0~2人 C 2~4人 D 4人以上	時間外勤務時間 月80時間を超える教職員の数 月平均2.3人(9~12月) 【判定:C】 (昨年度:C 月平均-1.5人)	・判定は、昨年度と変わらずC判定であった。しかし、数値は、月平均-1.5人となり、少しずつではあるが、改善傾向を示している。それぞれの教員がワークライフバランスを考え、適切な勤務時間や内容となっていくよう声かけ等行っていきたい。
4-2 中高一貫教育校に対する生徒及び保護者の期待やニーズを分析し、より望まれる学校づくりを目指す。	中高一貫教育校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	保護者アンケート㉒ 肯定的評価90% 【判定:A】 (前期と同じ)	・前期同様、A判定であり、保護者は肯定的である。このような現状が、倍率にも表れていると考えられる。引き続き発信を続けて行きたい。
	秋の学校説明会参加者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満	児童:180名 保護者:259名 その他:11名 合計:450名 【判定:A】(昨年度:485名)	・昨年度と同様にA判定であった。参加人数は若干減ったが、400人を越えるものとなった。受検倍率2倍を保つには、400人は確実に越える必要がある。春と夏の学校公開等も含め、生徒がいきいきと学ぶ姿を様々な場面で発信していく努力を続けたい。
	適性検査の受験者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満	250名 【判定:B】	・昨年度に引き続き、倍率2倍を超えることができた。管理職も含めた学校訪問や年間3回の学校公開・オープンキャンパスの影響が大きい。他の私立学校も増えてきているなか、近年2倍をキープできているのは、生徒そして教員の頑張りが評価されていると思われる。